



1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)北5条西14丁目学生会館 新築工事	階数	10
建設地	札幌市中央区北5条西14丁目1-9,1-16,1-17,1-20	構造	RC造
用途地域	商業地域	平均居住人員	108 人
建物用途	集合住宅	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
竣工年	2020年1月 予定	評価の段階	実施設計段階評価
敷地面積	847 m ²	評価の実施日	2019年8月1日
建築面積	503 m ²	作成者	花里
延床面積	3,571 m ²	確認日	2019年8月30日
		確認者	石川



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)	2-2 ライフサイクルCO ₂ (温暖化影響チャート)	2-3 大項目の評価(レーダーチャート)
BEE = 1.5 ★★★★★★ A S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★	☆☆☆☆☆ 30% ☆☆☆☆ 60% ☆☆☆ 80% ☆☆☆ 100% ☆☆☆ 100%超: ☆ 標準計算 ①参照値 100% ②建築物の取組み 79% ③上記+②以外のオンサイト手法 79% ④上記+オフサイト手法 79% (kg-CO₂/年・m²) このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです	性能 Q1 室内環境 Q2 サービス性能 Q3 室外環境(敷地内) LR1 エネルギー LR2 資源・マテリアル LR3 敷地外環境

2-4 一次エネルギー消費量の評価	2-5 中項目の評価(バーチャート)
建物全体の[BEI][BEIm]= 0.84	Q のスコア= 3.2 Q1 室内環境 Q1のスコア= 3.3 Q2 サービス性能 Q2のスコア= 3.3 Q3 室外環境(敷地内) Q3のスコア= 3.1 LR のスコア= 3.5 LR1 エネルギー LR1のスコア= 4.2 LR2 資源・マテリアル LR2のスコア= 3.0 LR3 敷地外環境 LR3のスコア= 3.1

3 設計上の配慮事項
総合 ・「建築物のエネルギー消費性能の向上に関する法律」を取得し、外皮性能の向上・省エネ効果の高い設備機器の選定などにより一次エネルギーの抑制をし省エネルギー対策を行っている。 B 省資源等 ・乾式間仕切、断熱材のウレタン吹付等、分別を比較的容易にしている。 ・ODP=0、GWP(100年値)=1の断熱材を使用している。 ・地球温暖化対策の取組みによりLCCO₂排出率が79%となっている。 C 緑化 ・基調となる樹種は、耐陰性・耐寒性のある常緑針葉樹及び常緑低木を用い、冬の緑量確保に配慮している。 ・道路境界沿いに植栽を配置し、通りからの美観に配慮している。 D 雪処理 ・敷地内通路をロードヒーティングとし、冬季間の除排雪作業の軽減に努めています。

4 ほかの認証・評価制度の利用
(財)建築環境・省エネルギー機構のCASBEE認証 BEIS認証 LEED認証

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと

CASBEE札幌2016(ver.1.4)
(仮称)北5条西14丁目学生会館 新築工事

 ■使用評価マニュアル: CASBEE_Sapporo2016v1.0
 ■評価ソフト: CASBEE札幌2016 (ver.1.4)

スコアシート		実施設計段階						建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	重点 評価項目	環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み 係数	評価点	重み 係数					
Q 建築物の環境品質											3.2	
Q1 室内環境							0.40		-		3.3	
1 音環境						3.0	0.15	3.0	1.00		3.0	
1.1 室内騒音レベル						3.0	0.50	3.0	0.50			
1.2 遮音						3.0	0.50	3.0	0.50			
1 開口部遮音性能						3.0	1.00	3.0	0.30			
2 界壁遮音性能						-	-	3.0	0.30			
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)						-	-	3.0	0.20			
4 界床遮音性能(重量衝撃源)						-	-	3.0	0.20			
1.3 吸音						-	-	-	-			
2 温熱環境						2.6	0.35	3.9	1.00		3.4	
2.1 室温制御						3.0	0.50	3.3	0.50			
1 室温						3.0	0.63	3.0	0.63			
2 外皮性能				省エネ	建築物のエネルギー消費性能の向上に関する法律に適合している。	3.0	0.38	4.0	0.38			
3 ゾーン別制御性						-	-	-	-			
2.2 湿度制御					除湿冷暖房機能付きエアコンを選定している。	1.0	0.20	4.0	0.20			
2.3 空調方式					快適性に優れたハイスpekなエアコンを選定している。	3.0	0.30	5.0	0.30			
3 光・視環境						2.5	0.25	3.1	1.00		2.8	
3.1 昼光利用						2.4	0.30	3.4	0.30			
1 昼光率					開口部を大きくし、昼光を確保している。	2.0	0.60	5.0	0.50			
2 方位別開口						-	-	1.0	0.30			
3 昼光利用設備				省エネ		3.0	0.40	3.0	0.20			
3.2 グレア対策						2.0	0.30	3.0	0.30			
1 昼光制御				省エネ		2.0	1.00	3.0	1.00			
2 映り込み対策						-	-	-	-			
3.3 照度						3.0	0.15	3.0	0.15			
3.4 照明制御						3.0	0.25	3.0	0.25			
4 空気質環境						3.6	0.25	3.8	1.00		3.7	
4.1 発生源対策						4.0	0.60	4.0	0.63			
1 化学汚染物質					床・壁・天井にF☆☆☆☆の建材を使用している。	4.0	1.00	4.0	1.00			
4.2 換気						3.0	0.40	3.6	0.38			
1 換気量						3.0	0.50	3.0	0.33			
2 自然換気性能					開口部を大きくして、開閉可能な窓を十分確保している。	-	-	5.0	0.33			
3 取り入れ外気への配慮						3.0	0.50	3.0	0.33			
4.3 運用管理						-	-	-	-			
1 CO ₂ の監視						-	-	-	-			
2 喫煙の制御						-	-	-	-			

Q2 サービス性能			—	0.30	-	-	3.3
1 機能性			3.6	0.40	3.8	1.00	3.7
1.1 機能性・使いやすさ			3.0	0.40	4.0	0.60	
1 広さ・収納性				-	-	-	
2 高度情報通信設備対応		100Mbpsの光ファイバー回線を整備している。		-	4.0	1.00	
3 バリアフリー計画			3.0	1.00	-	-	
1.2 心理性・快適性			4.0	0.30	3.5	0.40	
1 広さ感・景観 (天井高)		天井高を高くし、開放感を持たせている。(リビング CH=2500)		-	4.0	0.50	
2 リフレッシュスペース				-	-	-	
3 内装計画		建物コンセプトに基づき、パース、モックアップ等で事前に検証している。	4.0	1.00	3.0	0.50	
1.3 維持管理			4.0	0.30	-	-	
1 維持管理に配慮した設計		仕上材は防汚性の高い材料を使用し、極力凹凸のない設計としている。	4.0	0.50	-	-	
2 維持管理用機能の確保		清掃用資材を保管するスペースがあり、清掃用流し、電源を設置している。	4.0	0.50	-	-	
2 耐用性・信頼性			3.2	0.30	-	-	3.2
2.1 耐震・免震・制震・制振			3.0	0.50	-	-	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)			3.0	0.80	-	-	
2 免震・制震・制振性能			3.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数			4.1	0.30	-	-	
1 躯体材料の耐用年数		日本住宅性能評定基準の劣化対策等級3に相当する。	5.0	0.20	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔	省資源	耐候性・耐久性に優れている外壁材を選定している。	5.0	0.20	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔	省資源	耐用年数が長い内装材を選定している。	4.0	0.10	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔	省資源		3.0	0.10	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔	省資源	期待耐用年数が長い管材を選定している。	4.0	0.20	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔	省資源		3.0	0.20	-	-	
2.4 信頼性			2.4	0.20	-	-	
1 空調・換気設備			3.0	0.20	-	-	
2 給排水・衛生設備			2.0	0.20	-	-	
3 電気設備			3.0	0.20	-	-	
4 機械・配管支持方法			1.0	0.20	-	-	
5 通信・情報設備			3.0	0.20	-	-	

3 対応性・更新性			3.0	0.30	3.2	1.00	3.1
3.1 空間のゆとり			-	-	3.4	0.50	
1 階高のゆとり		階高3020mm以上。		-	5.0	0.60	
2 空間の形状・自由さ				-	1.0	0.40	
3.2 荷重のゆとり				-	3.0	0.50	
3.3 設備の更新性			3.0	1.00	-	-	
1 空調配管の更新性			3.0	0.20	-	-	
2 給排水管の更新性			3.0	0.20	-	-	
3 電気配線の更新性			3.0	0.10	-	-	
4 通信配線の更新性			3.0	0.10	-	-	
5 設備機器の更新性			3.0	0.20	-	-	
6 バックアップスペースの確保			3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.30	-	-	3.1
1 生物環境の保全と創出	緑化		2.0	0.30	-	-	2.0
2 まちなみ・景観への配慮	緑化	永く街並みと調和する外観デザインとしている。	4.0	0.40	-	-	4.0
3 地域性・アメニティへの配慮			3.0	0.30	-	-	3.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	雪処理		3.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上	省資源 緑化		3.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性				-	-	-	3.5
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	4.2
1 建物外皮の熱負荷抑制	省エネ	建築物のエネルギー消費性能の向上に関する法律に適合している。	4.0	0.20	-	-	4.0
2 自然エネルギー利用	省エネ		2.0	0.10	-	-	2.0
3 設備システムの高効率化	省エネ	[BE][BE _{lm}] = 0.84 -	5.0	0.50	-	-	5.0
4 効率的運用			3.5	0.20	-	-	3.5
集合住宅以外の評価				-	-	-	
4.1 モニタリング	省エネ			-	-	-	
4.2 運用管理体制	省エネ			-	-	-	
集合住宅の評価			3.5	1.00	-	-	
4.1 モニタリング	省エネ		3.0	0.50	-	-	
4.2 運用管理体制	省エネ	設備や仕様に関し、居住者に適切な説明がなされている。	4.0	0.50	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	3.0
1 水資源保護			3.0	0.20	-	-	3.0
1.1 節水			3.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60	-	-	
1 雨水利用システム導入の有無			3.0	0.70	-	-	
2 雑排水等利用システム導入の有無			3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			2.7	0.60	-	-	2.7
2.1 材料使用量の削減	省資源		3.0	0.10	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用	省資源		3.0	0.20	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	省資源	-	3.0	0.20	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	省資源	-	1.0	0.20	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材	省資源		2.0	0.10	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	省資源	乾式間仕切、断熱材のウレタン吹付等、分別が比較的容易である。	4.0	0.20	-	-	

3 汚染物質含有材料の使用回避			4.0	0.20	-	-	4.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用		有害物質を含まない接着剤を選定している。	4.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			4.0	0.70	-	-	
1 消火剤	省資源		-	-	-	-	
2 発泡剤(断熱材等)	省資源	ODP=0、GWP(100年値)=1の断熱材を使用している。	5.0	0.50	-	-	
3 冷媒	省資源		3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	3.1
1 地球温暖化への配慮	省資源	LCCO2排出率が90%である。	3.8	0.33	-	-	3.8
2 地域環境への配慮			2.5	0.33	-	-	2.5
2.1 大気汚染防止	省資源		1.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善	省資源 緑化 雪処理		3.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			3.2	0.25	-	-	
1 雨水排水負荷低減	省資源		2.0	0.25	-	-	
2 汚水処理負荷抑制			3.0	0.25	-	-	
3 交通負荷抑制		実情に応じた十分な駐輪スペースを確保している。	4.0	0.25	-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制	省資源 雪処理	別棟ごみステーション設置による十分なスペースの確保。	4.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮			3.1	0.33	-	-	3.1
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	
1 騒音			3.0	1.00	-	-	
2 振動			-	-	-	-	
3 悪臭			-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制			3.0	0.40	-	-	
1 風害の抑制			3.0	0.70	-	-	
2 砂塵の抑制			3.0	-	-	-	
3 日照阻害の抑制			3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制			3.7	0.20	-	-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		「光害対策ガイドライン」のチェックリスト項目の一部を満たしており、広告物照明を行っていない。	4.0	0.70	-	-	
2 昼光の建物外壁による反射光(グレア)への対策			3.0	0.30	-	-	



重点項目 評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE_Sapporo2016v1.0

■使用評価ソフト: CASBEE札幌2016(ver.1.4)

1 建物概要		BEE	1.5	BEEランク	A
建物名称	(仮称)北5条西14丁目学生会館 新築工事				
建物用途	集合住宅				
延床面積	3,570.8 m ²				

2 重点項目への取り組み		レーダーチャート	
地球温暖化対策	最重点項目 省エネルギー	★★★★☆	省エネルギー 性能 雪処理 省資源等への取組 緑化への取組 ★1=スコア(最低点～最高点)20%以下 ★2=スコア(最低点～最高点)20%～40%以下 ★3=スコア(最低点～最高点)40%～60%以下 ★4=スコア(最低点～最高点)60%～80%以下 ★5=スコア(最低点～最高点)80%以上
	省資源等	★★★★☆	
	緑化	★★★★☆	
	雪処理	★★★★☆	

3. 重点項目のCASBEEスコア									
A 省エネルギー（ 最高点 23.5 最低点 7.4 ）				合計		18.6点		／23.5点	
Q1 温熱環境	スコア	0.8	／1.4	LR1 建物外皮の熱負荷抑制	スコア	3.2	／4.0		
Q1 光・視環境	スコア	1.0	／2.1	LR1 自然エネルギー利用	スコア	0.8	／2.0		
				LR1 設備システムの高効率化	スコア	10.0	／10.0		
				LR1 効率的運用	スコア	2.8	／4.0		
B 省資源等（ 最高点 23.7 最低点 7.7 ）				合計		14.7点		／23.7点	
Q2 耐用性・信頼性	スコア	0.8	／1.1	LR2 非再生性資源の使用量削減	スコア	4.9	／9.0		
Q3 地域性・アメニティへの配慮	スコア	1.4	／2.3	LR2 汚染物質含有材料の使用回避	スコア	1.7	／1.9		
				LR3 地球温暖化への配慮	スコア	3.8	／5.0		
				LR3 地域環境への配慮	スコア	2.1	／4.4		
C 緑化（ 最高点 15.3 最低点 3.1 ）				合計		9.5点		／15.3点	
Q3 生物環境の保全と創出	スコア	1.8	／4.5	LR3 地域環境への配慮	スコア	1.5	／2.5		
Q3 まちなみ・景観への配慮	スコア	4.8	／6.0						
Q3 地域性・アメニティへの配慮	スコア	1.4	／2.3						
D 雪処理（ 最高点 3.0 最低点 0 ）				合計		1.0点		／3.0点	
Q3 地域性・アメニティへの配慮	スコア	0.0	／1.0	LR3 地域環境への配慮	スコア	1.0	／2.0		

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと■重点項目の**最高点**は、各評価項目で**レベル5**で評価された場合の点数■重点項目の**最低点**は、各評価項目で**レベル1**で評価された場合の点数